



第33号

2024年(令和6年)1月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727番地3

☎ 0957 - 34 - 4520

FAX 0957 - 34 - 4521

あけましておめでとーうございませす

社会福祉法人 聖家族会 理事長 西村 和子

2024年辰年が明けました。おめでとーうございます。

辰は龍とも言われ架空の動物と言われています。架空の動物なのにみんなの頭の中に同じイメージがあり、強く威信があり、姿も高貴な鮮やかさがあり、架空の動物と思われません。しかし本当に絵にかいたような動物が現れたら、人々はどれほど恐れることでしょうか。

こんな十二支の一つドラゴンの年。強くたくましく生きる年であり夢が実現しますように。

私たちの社会福祉法人の名前は、「聖家族会」と言います。辰とは違つて約2000年まえに本当にあつた

家族のことです。聖家族とはイエス様、マリア様、ヨセフ様の家族のことです。

聖家族について考える時、完璧な家族を想像します。イエス様は神様なので罪はありません。聖母マリア様も無原罪と言つて罪のないお方。義父である聖ヨセフ様は普通の人間なので罪も犯したでしょう。しかしお互いに傷つけあつたり、いがみ合うことがあるとは考えられません。争いなどは原罪の罪の結果生じたものなのでそのようなことはなかったでしょう。

私たちの家族の中には、両親のけんかや言い争いを見て育つ子どもは多いでしょう。

家族とはいったい何なのでしょう。

家族とは…夫婦、親子などの血縁関係によって組織された、人間社会の単位。夫婦を基礎として、一家をなす人びと。【広辞林より】

家族ってどんな存在なのだろう。両親がいて兄弟姉妹がいて一緒に暮らしている時は家族。けれども子どもたちは大きくなり、結婚して子どもができる、そこに新しい家族ができる。古い家族構成とは違つてくる。兄弟姉妹として1つの家族であつたが、それぞれ新しい家族ができる、新しい家族の方が大切になつていきます。そしてその子どもがまた次の家族をつくと、そこにまた新しい家族ができ古い家族よりやはり新しい家族が大切になつていく。いつまで、どこまで家族なのかと考えます。1つの家族の中で、一人の人間の生涯があるのではなく、変化していきます。

ただ「家族のもとにはいつでも自分の居場所があり、安心できて、心の支えになるひとびと」です。そして一緒にいて違和感がない」というのが家族かと思ひます。

2023年4月1日から、日本にはこども家庭庁ができています。ここでは「こどもちゅうしん」という標語が出ています。

聖家族の両親は子どもであるイエス様を、いつも中心としての生活でした。幼子イエス様を守るためにエジプトへの避難など。

お父さんとお母さんがいて子どもがいる。家族構成のためには親と子がいることが必要に思ひます。親は子どもの成長を助け、いつも安心して入れる場所を作り、成長するために助け守つてくれる人が親。その中で愛されている。

施設で親の役割を果たすのが職員。子どもの役割は障害を持った方々。障害を持った方が施設という大家族の中で愛され、ここに安心していられ、その人に合った成長を遂げることができていく。そのために共にいるのが職員です。施設内で直接働く職員だけでなく社会福祉法人聖家族会の理事、評議員、監事の方もみんな家族です。

この大家族「社会福祉法人聖家族会」は、1つの家族として聖母マリア様を母とし、幼きイエス様を、中心にして見守つたように、利用者を中心にした職員が1つになつてつながつていきますように。

2024年悲惨な姿の世界情勢がニュースに流れますが、小さなところから平和の波が広がっていきますように願っています。

「利用者様の笑顔ととも」

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 中濱 英子

めぐみの家に入社して早いもので10か月が経ちました。福祉の仕事に携わるのは初めてなのですが、職員の方々の丁寧なご指導、利用者様の素敵な笑顔に励まされ、毎日楽しい日々を過ごしております。

利用者様の一日一日の生活を支える大切な仕事。時には忙しく、あつという間に時間が過ぎていくこともあります。そんな中でも利用者様と接する中で楽しい会話が出来ると癒される気持ちになります。

これからも人の心の温かさが感じられる職場であり続けるよう、利用者様の生活を支えていきたいと思っております。

「利用者様とこれから」

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 森崎 幸

8月にめぐみの家に入社し、あつという間に5か月目に入りました。

利用者様の顔と名前を覚えるところから業務内容を覚えるのに四苦八苦していましたが、コミュニケーションを重ねていくことで出勤する度に「おはよう」があたり前になつていき、また名前を呼んでくれるようになり嬉しさと共に利用者様の笑顔に日々癒されます。

ご指導頂ける優しい先輩、同僚と利用者様の支援に携わることができ、大変なこともあります。それ以上にやりがいや楽しさを感じることができています。

利用者様一人ひとりに寄り添った支援ができるよう、一職員として努めていきたいと思っております。

「感謝の心を忘れず」

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 森 杏樹

めぐみの家に入社し、早8か月が経ちました。入社当時は利用者様の名前や業務内容を覚えることで精一杯でしたが、先輩方の温かいご指導のおかげで利用者様ともすぐに打ち解けることができました。また、食事、排泄、入浴など利用者様の毎日の暮

らしに寄り添った支援をさせて頂きながら、自身の介護技術向上にも努めていきます。めぐみの家に入社させて頂いたことに感謝し、利用者様が楽しく生活していけるよう一人の職員として寄り添ってまいります。

「日々の気づき」利用者様ととも」

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 中村奈保美

めぐみの家に入社して4か月経ちました。一番初めに苦労したのは、利用者様の顔と名前を覚えることで、支援についても戸惑う毎日でした。先輩職員の適切なご指導があり、日々の業務を乗り越えて来たと思っております。一人ひとりの支援にかかわる大切さの中で、その背景に気づく支援を行っていきけるよう自身を向上させ、取り組んでまいりたいと思っております。まだまだ未熟者ですが、今後ともご指導よろしくお祈り致します。



「めぐみの家に入社して」

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 諸岡 真奈

めぐみの家に入社して1年が経ちました。初めての環境の中、果たして自分に勤まるのだろうか…と色々な不安を抱えて出勤した際まずびっくりしたのは、ずっと動きっぱなしの支援員さん、一人ひとり個性が違う利用者様、まずは顔と名前を覚えること…。でも人数が多い分、覚えるのに時間がかかりました。支援のあり方も一人ひとり違うため、支援員の方に何度もたくさん教えていただいたながら早く覚えようと毎日必死でした。そんな中、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生、右も左も解っていない自分に何が出来るだろう、と思っているうち時間はあつという間に過ぎていきました。感染症も収束した今、日常生活も戻っているのに業務内容も把握していません。失敗もたくさんありますが利用者様と同じ空間で過ごす中、毎日違う発見もあり、めぐみの家に入社してよかったと感じています。

『感謝の気持ち』

みさかえの園のぞみの家

副施設長・事務長 副島 敏充

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年七月に、当施設内で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、利用者の皆様や御家族、関係者の皆様に多大なご心配、ご迷惑をおかけすることとなりました。

新型コロナウイルスの感染力は我々の想像以上に強く、また施設での隔離支援は非常に難しくあつという間に広がってしまいました。

この緊急事態に聖家族会の各施設

から人材・資材・知恵等の応援をして頂き、大きな被害も無くこの難局をどうにか乗り越えることができました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

利用者の皆様は、十月にインフルエンザの予防接種、十一月に五回目のコロナワクチン接種が完了しております。全国的に昨年十一月頃より感染者数は減少傾向となっているものの、新型コロナウイルスが完全に無くなったわけではありません。当施設での感染防止対策に関して、利用者様の安全と健康を第一に考慮し、昨年の経験等から学んだことを活かして、引き続き最善を尽くして参ります。

のぞみの家は、平成六年度に建物

を全面改築整備して今年で三十年が経過しようとしています。長い年月を経て、建物の至る所に経年劣化の跡が見られ、毎年修繕を行い今日に至っております。今や生活に欠かすことのできない冷暖房機器もその一つです。当施設では、現在、天井に埋込された集中管理型の冷暖房機器を使用しているのですが、老朽化により機能が果たせなくなってきました。これを改善するため、昨年、のぞみの家育友会様より賜りました多大な御寄付を活用させていただき、個別エアコンを二〇二四年九月までに各居室、食堂、廊下、作業室等に設置し、利用者の皆様が快適に生活できる環境作りを整えていきたいと考えています。

さて、二〇二四年は「甲辰」です。「甲」が持つのは十干の第一位であり優勢であることを表し、また、生命や物事の始まり、成長も意味します。「辰」は十二支の中では唯一の架空の生き物、龍(竜)を意味し、空へ昇る龍のように雲を突き抜け運を掴むと言われています。この二つの組み合わせである甲辰(きのえたつ)は、「活気あふれる芽吹き」の年、運氣の上がる年」となります。

令和六年が皆様にとっても、また当施設にとっても活気に溢れ運が上がる年となるよう邁進していく所存です。

本年も変わらぬご愛顧のほど、何卒宜しくお願い致します。



守る会の会長・北浦雅子さん 百一歳の旅立ち

みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家

施設長 福田 雅文

北浦さんは昨年2月に百一歳で旅立たれた。北浦さんは重い障がいのあるわが子が救うために、親の会である「全国重症心身障害児(者)を守る会」を結成し、「最も弱いものをひとりもれなく守る」というスローガンを掲げて、国や社会に支援を求めた。一方、聖家族会初代会長の中山和子シスターは祈りの中で「神が、そして神と共に、もっとも弱い者に対して、最も慈悲深い、聖母マリアが、この事業を始めることを、私たちに望んでおられる」という声を聞かれ、5年近くの準備期間を要して、昭和41年2月に、重症心身障害児施設みさかえの園むつみの家を開園した。二人は同じ時代を生き、北浦さんは当事者として、中山シスターは支援者として、重い障がいのある子どものために奔走し、同じ思いで交流を深めていた。

北浦さんはわが子について語っている。わが子の無言の笑顔から「生きるとは何か」「人生の幸せとは何か」を問われ、様々なこと教えられた。人を信じ、なんの邪心ももたず、みるものの心を洗い清めてくれる特別な笑顔だ。『生きる』ことの尊厳』『人情のありがたさ』を知り、最終的には『人生の幸せは形ではなく、心である』という境地に至ったと。

《なごみ会館》

《「なごみ」会館の名前の由来は、初代理事長 中山和子 sr 現理事長 西村和子 sr の「和」からいただき「なごみ」会館としました。》

10月の秋晴れのもと、利用者様へなごみ会館のお披露目ができるよう、なごみ会館にちなんだ「なごみカフェ」と名づけたカフェを開きました。入り口では、みんなワクワクしながら扉をひらくと、「わあ～きれい」「すご～い」の歓声がとびかっていた。ホールでは、コーヒーの香りに、ほっこり癒され、ゆっくりできたようです。ピアノライブをひらいたり、12月にはツリー点灯式を組み込んだりと、これから利用様と一緒にどのようなイベントを企画していくか楽しみです。



なごみカフェ



はじめてのなごみ会館で
ツリーの点灯式



ゆったりライブを聞きながら
コーヒータイム

「今、地域へ出かける」

小さなチャレンジから

次のステップへと向かう

デイスペースあん

生活支援員 藤江 智志

デイスペースあんが目指すものは、一つは「利用者様の大切な一日一日をご本人もご家族も安心して安全に快適に楽しく、そしてホッととして過ごしていただけるような居場所づくり」、もう一つが「地域の真ん中でギユツとつまった味のあるサービス提供」です。(デイスペース「あん」の名は、「餡子のあん」に由来する)しかしコロナ禍以来、やはり他の事業所と同様、健康面の安心と安全を重視せざるを得ず施設内での活動に偏っていましたし、そして今なお、私たちの心のどこかに、なかなか地域へ出ずらいなあと感じてしまうことは時々あります。

今回紹介する2つの地域へ出かける小さなチャレンジ(一歩前に)を通して利用者様の輝きと交流の力に私達職員もわくわくを感じることができました。また近日、さらに進んで企画の段階を終えた「※あんGO5部隊(全5部隊)」の一部隊がいよいよ発動予定です。そうした面でも一助となる活動でした。

ボッチャ競技、初参戦で

みごと勝利の快挙!

県障害者スポーツ大会(R5.5.5)

28)において諫早市の内村体育館で行われたボッチャ競技(レクリエーションの部団体戦)に参加し、初参戦で見事勝利をあげました。

デイスペースあんから3名の利用者様と市内在住の男性(桑宮さん)の混成チームで唯一の諫早代表として臨みました。



諫早A代表チームメンバー

結果は、初戦の1回戦は長崎B

チームに勝利! 2戦目は激戦の末、島原Bに惜敗。決勝トーナメント進出こそ逃しましたが、このチームの目標「楽しんで1勝!」を真事に達成してくれました。試合終了直後メンバー3名全員、「次を目指したい!」とワンステージ上の景色を指す意欲をみせてくれます。さらに彼女らは「これまで一緒に練習を積み重ねてきたデイスペースあんの仲間や応援してくださった皆さん

に心より感謝します。」との言葉も残してくれました。そして今もチームメンバーの桑宮さんとはボッチャの交流は続いています。



「大人の遠足」

百花台公園(雲仙市)に「大人の遠足」(R5.11.2)と題して外出しました。利用者様と職員全員(総勢27名)の初の大所帯移動は、4台の車での出かけでした。当日は天候にも恵まれ、広々とした屋外で一日を楽しく過ごしました。



来園者の方に撮っていただいた集合写真



野外練習を行うあんGO5部隊

公園散策、お弁当など思い思いに生まれ、あんGO5部隊の屋外練習も行って充実した時間を過ごせました。滞在中、来園していた保育園児と互いあいさつを交わしたり、散歩中の男性から親しくお声掛けいただき、写真を撮っていただくなど予期せぬ交流もありました。帰所後、利用者様も職員も口々に「本当、楽しかったあ」「またみんなと一緒に出かけましょうよ」と、次回への期待の声も多く聞かれました。



※あんGO5部隊とは、「地域をもらあげたい(盛り上げ隊)」を旗印に、地域交流として保育園や学校などを訪れ、一緒に活動やイベントを行う活動。今後、詳しくご紹介したいと思っています。

先人の思いを胸に 新たな出発へ

施設長 平松公三郎

昨年はあゆみの家が開設されて50年となり先人の思いに触れる年になりました。深い思いを胸に新たに迎えた2024年をスタートしたいと思います。

はじめに「愛だけが創造する力を持つ」というコルベ神父様の言葉です。愛の精神はみさかえの園において脈々と現在まで受け継がれています。

次に、ミロハナ神父様の言葉です「真理で生きるためには、良心のささやきに敏感になることです」利用者の方々の澄んだ目の中に宿るものが真理です。私たち支援者は、その真理を良心により敏感に感じ取り、どのように支援すべきか考えていかねばなりません。

そして、シスター中山和子先生のあゆみの家創設のときの言葉です。

「福祉の谷間に一人でも落ちこぼれる子どもがあつてはならない」利用者の皆さんが職員の献身的な愛情に包まれてたのしく明るく、そしてかれらなりに力強く、もっている能力をいっぱい開花させつつ生き抜いてほしいと念願しています」とのメッセージを職員に残されています。コルベ神父様の示された「愛」と

ミロハナ神父様が示された「真理をもとめる精神」をもって、中山和子先生の示された道を、私たちあゆみの家の職員一同これからも歩んでまいりますと思います。

皆さま、この一年をどうぞよろしくお願い致します。

あゆみの家50周年記念 劇「もし、けがれなき 聖母がお望みなら」

副施設長 本山 和徳

「聖母マリアよ、私を導いてください」

みさかえの園の創立は、ポーランドに生まれた一人の男の子の、聖母マリアに捧げる思いに端を発します少年はやがて、神父ミエチエストラオ・マリア・ミロハナとなりました。Sr、ドロタによってミロハナ神父の一生が記された一冊の本「もし、けがれなき聖母がお望みなら」をもとに、私たちは、あゆみの家50周年の記念祝賀会でミロハナ神父の少年



時代からあゆみの家創立までの道のりを劇にして実演いたしました。

コロナ禍で練習もままならない時もありましたが配役をはじめナレーター、背景画制作、背景音乐、衣装担当など多くの職員の協力のおかげで無事に上演することができました。多忙な勤務の合間に尽力いただいた皆様に感謝いたします。

記念祝賀会



Sr. ドロタ

聖母マリアへの信仰によってなされたことを改めて知ることができました。



劇より 本山副施設長(中央)と吉田先生(左)

故郷ポーランドを立って日本の地を踏み、一度も帰郷することなく、孤児と重症心身障害児の方たちの救いに一生を捧げられたミロハナ神父に畏敬の念と感謝を捧げます。聖母マリア、ミロハナ神父様、みさかえの園をこれからもお導きください。

ここに利用者の方々の日々、ご家族、職員が守られますようにお祈りいたします。

あゆみフェスティバルと 50周年記念祝賀会を終えて

昨年10月のあゆみフェスティバルと11月の50周年記念祝賀会は多くの職員が協力して準備にあたり特に大きなトラブルもなく終えることができました。

施設外の出演いただいた方との交渉などでは療育部の坂本課長やひかりの丘の工藤看護主任が、背景画や会場の飾りつけなどではHAPチームが、「虹」の合唱や劇では多くの有志の職員が勤務を終えた後の時間を割いて協力してくれました。

あゆみフェスティバルの司会担当だった本山副施設長は、合唱曲の選曲や振り付け、祝賀会の劇の脚本や演出など大忙しでした。もう一人の司会の吉田先生は、劇でセリフが最も多い主役を演じました。

ご協力いただいた施設外の方々や修道女会のシスター、裏方などで力を貸してくれた職員のみなさまに感謝いたします。



「虹」の合唱

ワークスペースあん

新年にあたり今年もよろしくお願ひ致します。コロナも5類へ移行しホットしたのも束の間で、インフルエンザ感染が懸念されています。職員、利用者さん共に事業所運営（授産科目）には体力が必須となります。夏季の屋外作業を水分補給（塩飴含む）・休憩時間の延長・作業時間の短縮・作業後の車両送迎などの対策で乗り越え現在、冬季を迎え大きな怪我や病気もなく元気に（楽しそうに）働く姿を見て自然の大地の恵みをたくさん頂いていることに感謝しています。昨年を振り返り下記にトピックスを上げましたのでご覧ください。事業所外での作業依頼（主に環境整備）も年々増加しており半日及び終日かけて対応しています。作業範囲も長崎市内まで拡がり国有地・個人宅（空き家含む）・保育園・公共施設などです。最大のメリットは、利用者さんの社会参加の一環とモチベーションアップに繋がることです。

事業方針の就労支援として「仕事（働く・働きたい）を通じて「働く喜び」「生きがい」「達成感」を味わい豊かな生活を送れるように支援する」と掲げています。これからも利用者さんの笑顔を糧にサポートに取り組んでいきたいです。
（サービス管理責任者：門脇直子）

トピックス① 新規受託作業（マルチ内除草） 12/1（金）開始「小江干拓（高来町）」



・長崎県県央振興局農林部諫早湾干拓宮農支援センターの紹介を受け参加していません。

レタス栽培（マルチ内）の除草作業です。レタスの葉を傷めないようにちぎらないように手先の作業技術が必要とされます。

1か月が過ぎ利用者さんも作業に慣れて来ているところです。

事業所からの移動距離が近い所も助かっています。

トピックス② 受託作業（高菜生産） 8/24「高菜堆肥振り」 12/20「高菜出荷」



・2015年から取り組んでいます。
作業工程全般、各利用者さんの力が発揮出来、マッチング作業となっています。

トピックス③ バザー出店「ふれあいと交流の集い（10/28）」焼き手としてデビュー



・フランクフルトソーセージを焦がさないようにクルクルと器用に回しながら焼き上げています。販売出来た時の喜びも、ひとしおです。

トピックス④ 環境整備「あゆみの家花壇整備（4/24・11/1）」



・週に1回自販機の管理と施設建物周囲の美化管理を担っています。

花壇整備は、要望に沿って耕しから花苗植え付けまで行っています。

法人事務局からのお知らせ

防犯訓練を実施しました

10月17日 むつみの家なごみ会館に於いて防犯訓練を実施しました。コロナ禍のため令和元年以来4年ぶりの開催となりました。

諫早警察署小長井駐在所の中村巡查長を講師に招き、前半は福祉施設での不審者(侵入者)対応のDVDを視聴。後半はむつみの家職員による模擬訓練を実施しました。長里駐在所の諸富巡查長による不審者役が迫力満点で、職員も緊張感を持って訓練に臨みました。さすまたの使用についてご指導いただいたほか、実際に110番通報を行い、実践さながらの訓練になりました。

こういった不測の事態にならないのが一番ですが、万一に備えて今後も防犯訓練を継続的に計画・実施していく予定です。



各施設のご案内

○法人事務局

諫早市小長井町遠竹 2727-3

☎ 0957-34-4520

○みさかえの園めぐみの家

諫早市小長井町遠竹 2727-10

☎ 0957-34-3112

○みさかえの園のぞみの家

諫早市小長井町遠竹 2727-1

☎ 0957-34-3114

○ワークスペースあん

諫早市小長井町遠竹 2727-20

☎ 0957-34-4511

○みさかえの園あゆみの家

大村市久原二丁目 1346-1

☎ 0957-27-3115

○みさかえの園総合発達医療福祉センター

むつみの家

○みさかえの園児童発達支援センター

諫早市小長井町牧 570-1

☎ 0957-34-3113

○長崎県医療的ケア児支援センター

諫早市小長井町牧 559-15

☎ 0957-27-6360

○みさかえの園サテライトセンター

・スマイルサポート・デイサービスあん

・グループホームりん

諫早市高来町泉 196-1

☎ 0957-32-2535

○諫早こどもデイサービスわくわく広場

諫早市長田町 1470

☎ 0957-20-4120



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらのQRコードからご覧いただけます。

<https://misakae.or.jp/>